

授業モデル2 (小学校第5学年 表現のみよくを伝え合おう「大造じいさんとガン」)

- 1 単元名 表現のみよくを伝え合おう 「大造じいさんとガン」(光村 国語五)
 2 本時の実際(4/7)

- (1) 目標
 ア 大造じいさんの残雪に対する心情の変化を登場人物の行動や情景描写から読み取ることができる。
 イ 意見の交流を通して、自分の考えを深めるとともに考えたことを文章にして表現することができる。
- (2) 本時の指導のポイント
 ア まず学習課題に対する自分の考えを書かせる。そして、グループでの対話を通して自分の考えを再構築(強固・付加・修正)させ、最終的な考えを書かせる。その後、最初の考えと最終的な考えを比較し、考えの広がりや深まりを実感させることによって自己の変容に気づかせる。
 イ 振り返りにおいて、本時の学習でできるようになったこと(ついた力)を、言葉で表現させることによって、他の文学的文章の読み取りでも使えるように一般化する。

授業充実の3ポイント	主な学習活動	形態・時間	教師の具体的な働きかけ ※評価
【目標の明確化】 1 興味関心が生まれる導入 2 課題(問題)意識の焦点化	1 前時までの学習を振り返る。 ・ 大造じいさんの行動 ・ 大造じいさんの残雪に対する気持ち(情景描写から) 2 課題を焦点化する。 ・ 3の場面の後半部分の音読 ・ 大造じいさんの気持ちの変化	一斉 5分	○ 前時までに学習した大造じいさんの気持ちを大造じいさんの行動や情景描写を基にして振り返る。 ○ 大造じいさんの残雪への見方が変化したことに気付かせる。
3 学習課題(問題)・めあての設定 4 解決の予想と見通し	3 学習課題を把握する。 なぜ大造じいさんは、ただの鳥に対してこのような気がしなかったのだろうか。 4 課題解決の見通しをもつ。 一人調べ→グループ→全体	一斉 2分	○ 登場人物の心情を読み深めることができるような学習課題を設定する。 ○ 課題解決に見通しをもたせるために、学習の手順を確認する。
【山場の工夫】 5 自力解決による最初の考え(仮説)の構築 6 考えの交流(学び合い)	5 学習課題に対する自分の考えをもつ。 ・ 残雪の様子や行動を読み取る。 ・ 自分の考えをまとめる。 ～という表現から、…と いうことが考えられるね。 6 考えを共有する。 ・ グループでの共有 ・ 全体での共有 ぼくは、残雪の強さに心打 たれたんだと思うよ。	個 10分	○ ワークシートを準備し、表現を根拠に自分の考えをまとめさせる。 ※ 表現を根拠に自分の考えを書くことができる。 表現を根拠にして自分の考えをまとめましょう。
7 自力解決による最終的な考えの構築	7 自分の考えを練り直す。	18分	○ 根拠を基にして、自分の考えを発表させる。 ○ 自分の考えと友だちの考えを比べながら聞かせる。 ぼくは、強さだけではないと思うな。 ○ 自分の考えに付け加えたいことをワークシートに書かせる。
8 学習のまとめ・習熟	8 学習のまとめをする。 救わねばならない仲間を助けようとして命をかけて戦い、きずついても頭領としてのいげんをきずつけまいと努力している姿に強く心を打たれたから。	一斉 10分	○ 意見の共有を通して考えたことをふまえてまとめさせる。 ※ 意見の共有を通して考えたことをふまえて、まとめることができる。
9 振り返り(自己評価・相互評価)	9 本時を振り返る。 視点2 本時の授業を通してどのような力がついたかを押さえることにより、本時の授業で身につけた力を概念化させる。そのことによって、同様の課題に直面したときに、あの方法で取り組みれば解決できるという見通しが立つため、身に付けた力を発揮することができるようになる。		視点1 対話して広がったり、深まったりした思考を、発達段階に応じた分量の文章で表現させることを毎時間繰り返し行い、思考したことを表現する習慣をつける。 ○ 登場人物の心情の変化を捉えるには、行動や情景描写に着目すればいいということをおさえる。

【コアティーチャーネットワークプロジェクト国語科】

瀧澤佳子(奄美小), 野元初美(伊津部小), 永岡かおる(朝日小), 鯨坂真由美(大和小), 久保昌意(岡前小)
 大脇輝希(名瀬中), 下川奈津子(東城中), 勝康義(大和中), 松元美樹(田検中), 松本康子(赤徳中)
 入佐俊和(奄美市教育委員会), 山宗功(大島教育事務所)

「確かめ見届け」

学力定着のためのリーフレット 国語科編

=H30コアティーチャーネットワークプロジェクトまとめ=

大島教育事務所

「『主体的・対話的で深い学び』の実現による学力向上プログラム」の一環として行われたコアティーチャーネットワークプロジェクトで「質の高い授業」のモデルづくりに取り組みました。
 大島地区の児童生徒の学力を定着させるためには、「確かめ見届け」の充実が必要であると考え、授業づくりをしています。ぜひ、参考にして授業に生かしましょう。

1 大島地区の国語科の課題

平成29年度「鹿児島学習定着度調査」から

学年・観点等	県	地区	差	学年・領域等	H27	H28	H29		
小5	基礎・基本	73.1	73.1	+0.0	小5	話す・聞く	-2.0	+4.0	-3.5
	思考・表現	45.8	43.2	-2.6		書く	-1.3	+1.1	-1.3
	全体	66.8	66.2	-0.6		読む	-0.5	+0.2	-0.2
中1	基礎・基本	68.0	65.4	-2.6	中1	話す・聞く	+0.9	-4.2	-3.8
	思考・表現	57.6	49.4	-8.2		書く	-0.5	-5.1	-8.1
	全体	65.1	60.9	-4.2		読む	-2.0	-2.0	-5.3
中2	基礎・基本	68.5	64.9	-3.6	中2	話す・聞く	-3.5	-3.2	-0.7
	思考・表現	53.2	49.0	-4.2		書く	-4.7	-3.4	-5.8
	全体	63.9	60.1	-3.8		読む	-1.6	-2.9	-4.4

<全体的傾向>

- 小学校第5学年…前年度に上回っていた領域が、平成29年度は下回っている。
- 中学校第1・2学年…基礎・基本、思考・表現ともに県平均との差が大きい。

<領域別傾向>

- どの学年も県平均を下回り、昨年度より差が広がった領域が多い。
- 特に、中学校は「書くこと」「読むこと」の領域において県平均との差が大きい。



大島地区国語科の課題 「書くこと」「読むこと」の領域

～自分の考えをもち、書いて表現するための確かな読み取り～

2 授業づくりのポイント

大島地区の課題を踏まえた授業づくり

- 視点1** 児童生徒の「読む」力を伸ばし、「書く」力につなげるための指導になっているか。

本時の展開

学習課題に対する考えを、読み深めたことを基に発達の段階に応じた文章量で書かせる。



学習内容等の定着を図る「確かめ見届け」の充実

- 視点2** 異なる教材や課題等に対して、学んだことが生かせる指導になっているか。

本時の展開

分かったことを振り返らせ一般化させる。



授業モデル1 (中学校第1学年 自分を見つめて「少年の日の思い出」)

1 単元名 自分を見つめて 「少年の日の思い出」(光村 国語1)

2 本時の実際 (5/6)

- (1) 目標
- ア チョウを一つ一つ粉々につぶしてしまった「僕」の心情を、これまでの様々な場面や登場人物の言動等を結び付けて、理解することができる。
 - イ 学習課題に対する自分の考えを、根拠を明確にしてもつとともに、対話を通して考えを強固・付加・修正し、より確かなものにして文章で表現することができる。
- (2) 本時の指導のポイント
- ア まず学習課題に対する自分の考えを書かせる。そして、グループでの対話を通して自分の考えを再構築(強固・付加・修正)させ、最終的な考えを書かせる。その後、最初の考えと最終的な考えを比較し考えの広がりや深まりを実感させることによって自己の変容に気づかせる。
 - イ 振り返りにおいて、本時の学習でできるようになったこと(付いた力)を、言葉で表現させることによって、他の文学的文章の読み取りでも使えるように一般化する。

3 本時の実際

授業充実の3ポイント	主な学習活動	形態・時間	教師の具体的な働きかけ ※評価
<p>【目標の明確化】</p> <p>1 興味関心が生まれる導入</p> <p>2 課題意識の焦点化</p> <p>3 学習課題の設定</p>	<p>1 前時までの学習を振り返る。</p>  <p>2 学習課題を把握する。</p> <p>「僕」がちょうを一つ一つ粉々につぶしてしまったのはなぜだろうか。</p>	<p>一斉</p> <p>2分</p>	<p>【学習の流れの確認】 1時間の学習の流れをボードに書いて提示し、次に何をするのかを全員が確認できるようにする。</p> <p>○ 課題解決の見通しをもたせるために、学習の流れを確認する。</p> <p>視点1 思考して書くことに課題がある大島地区の児童生徒に、つけさせたい力を意図した学習課題を設定する。 これまで僕の視点・エーメールの視点で本文を読んできたことを基に、本場面の僕の行動を丁寧に読み取り、学習課題の解決を目指させる。</p>
<p>【山場の工夫】</p> <p>4 解決の予想と見直し</p> <p>5 自力解決による最初の考えの構築</p>	<p>3 課題に対して考えたことをノートにまとめる。</p> <p>視点1 教材文を根拠にして、思考したことをまとめて文章にする時間をとることで、グループでの意見交換がスムーズになる。</p>	<p>個 5分</p>	<p>○ 根拠となる部分を叙述に沿って挙げさせ、自分の考えをまとめさせる。</p> 
<p>6 考えの共有</p>	<p>4 学習課題に対する考えを3人グループで相互に意見交換し、共有する。</p> 	<p>グループ 10分</p>	<p>○ グループ内で考えを共有させるために、ホワイトボードに書かせる。</p> <p>【ホワイトボードの活用】</p> <ol style="list-style-type: none"> 教科書から自分たちの考えの根拠となる部分を書かせる。 自分たちの考えを書かせる。 他グループ(聞く側)が分かりやすいように整理して書かせる。

- 5 課題解決のための合意形成をして、グループごとに発表する。 一斉 5分
- 6 各グループから出た意見について質問し合う。

- グループごとに発表し、疑問に思ったことや相違点等の意見交換をする。



【課題解決のための合意形成(練り上げ)】
各班で出された意見を、ボードで確認しながら意見交換をさせることで、他の班との類似点や相違点に気づき、自分の考えを再構築する手立てとすることができる。
また、自分の考えと違う考えを知ることにより、考えに広がりや深まりが生まれる。

7 自力解決による最終的な考えの構築

- 7 自分の考えを練り直す。

- 相互練り上げで出された意見を吟味・検証したあとに、考えを練り直させる。
- 初めの考えと練り直した考えを比較させ、自分の考えの変化や自己の変容に気付かせる。



視点1
再度教科書に立ち返り、何を根拠として僕がちょうをつぶした理由を書いたのか、他者の意見を聞いた上で新しい価値観を生み出す時間をもつ。

8 学習のまとめ

- 8 学習課題のまとめを発表する。

- グループや全体の練り上げ等、意見の共有を通して深めた自分の考えを書くことができる。
- ノートに3行程度の文章で書かせることによって、意見交換によって広がったり深まったりした考えを表現させる。
- 当初の自分の考えと比較させ、自己の変容に気付かせる。

エーメールに軽蔑され、償いがないことを悟り、自分はちょうをもつ資格がないと思ったので、時間をかけて自分を罰するとともに、二度とちょう集めをしないことを決意したから。



視点1
再度教科書に立ち返り、何を根拠として僕がちょうをつぶした理由を書いたのか、他者の意見を聞いた上で新しい価値観を生み出す時間をもつ。

9 振り返り

- 9 本時を振り返る。

視点1
対話して広がったり、深まったりした思考を、発達段階に応じた分量の文章で表現させることを毎時間繰り返す習慣を付ける。

登場人物の心情を読み深めるには、登場人物の行動や会話、情景描写に注意すればよいことが分かった。

- 本時の学習で考えたことやできるようになったこと(付いた力)を、ノートにまとめさせる。
- 発問しながら生徒にまとめさせるが、まとめられない場合は、指導者がまとめを行う。

【単元ワークシートの活用】
単元の学習を振り返り、自己の読みの変容が分かるようなワークシートを準備し、授業ごとに記入させて、読みの深まり(読む力がついたこと)を実感させる。

視点2
本時の授業を通してどのような力がついたかを押さえることにより、本時の授業で身につけた力を概念化させる。そのことによって、同様の課題に直面したときに、あの方法で取り組みれば解決できるという見通しが立つため、身に付けた力を発揮することができるようになる。

- 10 次時の学習を確認する。

- 次時は、別の人物の視点で書くことを確認する。

「確かめ見届け」